

「精神神経学雑誌」学会シンポジウムテーマ一覧

1974年

76 巻1号,いわゆる精神病質について

77 巻3号,現代社会と精神医療の接点としての家族

77 巻 10 号,薬物療法

76 巻 12 号,精神衛生法

1975年

77 巻2号,精神化治療の問題点

77 巻6号,社会の変化と精神障害

77 巻8号,精神外科

77 巻 11 号,作業療法

1976年

78 巻4号,精神分裂病とは何か

78 巻 10 号,老人と精神医療

1977年

1978年

80 巻6号,精神分裂病とは何か－治療的視点から

1979年

81 巻2号,老年期の精神障害－痴呆を中心として

81 巻3号,精神療法とは何か－治療者と患者とのかかわりあいという視点から,アルコール症の基礎と臨床

81 巻4号,司法精神鑑定

81 巻 11 号,社会復帰

81 巻 12 号,躁うつ病

1980年

82 巻1号,精神療法

82 巻4号,司法精神鑑定

82 巻 10 号,精神科における治療,社会復帰

82 巻 11 号,精神鑑定

82 巻 12 号,臨床における自殺

1981年

83 卷 11 号,精神科外来治療,精神鑑定,精神医療における倫理

83 卷 12 号,社会復帰と福祉,生体リズム,思春期

1982年

84 卷 10 号,精神医療と診断

84 卷 11 号,覚醒剤中毒と臨床,保安処分

1983年

85 卷7号,発達段階の異なる社会における精神科医療の供給パターン

85 卷8号,アルコール症と薬物乱用の最近の傾向,精神科医療における法的・倫理的諸問題

85 卷9号,精神医学研究の新動向,薬物精神医学の新側面

85 卷 10 号,精神分裂病についての考え方:臨床場面にどうかかわっているか,精神医学教育

85 卷 11 号,精神内分泌学,神経ペプチド,デキサメサゾン抑制試験,精神医療の根本問題と今後の課題

1984年

86 卷5号,各国における精神医学教育のトレーニング

86 卷6号,新しい診断基準の適用:ICD-9とDSM-III

86 卷7号,老年精神医学の最近の進歩

86 卷8号,うつ病の生化学的研究,児童青年精神医学

1985年

87 卷1号,岐路に立つ精神医療:その打開の方向性

87 卷2号,精神医療と精神療法

87 卷3号,精神医学教育

87 卷6号,精神分裂病の治療:現状と展望

87 卷 10 号,医学研究と人権,内因性精神病の診断と治療をめぐる諸問題

87 卷 11 号,精神医療の進むべき道

87 卷 12 号,長期入院をめぐる諸問題:日本と外国の比較,精神疾患と精神生理学

1986年

88 卷9号,精神衛生法改正問題

88 卷 10 号,神経症の診断基準と治療をめぐる諸問題,地域精神医療と社会復帰

88 卷 11 号,強制医療と人権保護,医の倫理,精神科薬物療法の新しい動向

1987年

89 巻9号,老年精神医学,精神医療改革への展望

89 巻 10 号,医療・医学研究と人権—とくに脳死・植物状態について,精神科の卒後研修と生涯教育

1988年

90 巻3号,精神衛生法改正国際フォーラム,基調報告号,国際規約をめぐる論点号,後見号,危険性の予測号,各国の法改正

90 巻 10 号,青年期の精神医学,神経伝達物質:精神疾患および向精神薬との関連,産業における精神医療とその問題点

90 巻 11 号,精神医療工場のための医療費体系を考える,精神保健法を問う,精神医学の卒後研修と生涯教育

1989年

91 巻9号,最近のうつ病の病態と治療,摂食障害の病理と治療

91 巻 10 号,老年期痴呆研究のストラテジー,精神保健法施行後の問題点の検討

91 巻 11 号,精神科デイ・ケアの現状と将来への展望,金沢総会以降20年をふり返って—将来への展望のために,精神科卒後研修の現状と理念

1990年

92 巻9号,精神科領域における薬効評価,学会認定医と精神保健指定医—精神科卒後研修との関連において

92 巻 10 号,精神保健法3年後の見直しに向けて—医療法改正の流れの中で,睡眠・覚醒障害研究の現状

92 巻 11 号,精神科リハビリテーションと医療費体系,境界例の病理と治療

1991年

93 巻 10 号,精神分裂病研究の現状と展望,難治性精神障害の臨床,精神科卒後教育と学会認定医制

93 巻 11 号,精神保健法はいかにあるべきか,精神障害者のリハビリテーションと福祉,アルコール関連障害の病態と治療,精神科における老年期の治療—老年期痴呆に対する精神科医の役割を中心に

1992年

94 巻 10 号,精神科医療と学会認定医制,画像診断の精神医学へのインパクト

95 巻 11 号,医療環境といわゆる処遇困難者問題,精神保健・医療・福祉のシステム化

をめざして,非定型精神病の概念と現在の位置づけ

95 巻 12 号,精神科治療の基本としての精神療法

1993年

95 巻 10 号,精神科卒後教育と学会認定医制,精神病理学と生物学的精神医学の接点

95 巻 11 号,精神障害者の自立と保護義務者,パニックディスオーダーの病態と治療—生物学的視点から心理・社会的視点

1994年

96 巻 10 号,精神科卒後教育と学会認定医制,精神分裂病の長期経過

96 巻 11 号,あるべき精神科医療供給体制と医療費体系の改革,精神病理学と生物学的精神医学の接点,精神科におけるインフォームド・コンセント

1995年

97 巻9号,学会認定医制をめぐる諸問題,精神病理学と生物学的精神医学の接点(3)

97 巻 10 号,精神障害者の自立と社会参加の促進に向けて

97 巻 11 号,

97 巻 12 号,精神科臨床における診断の意味—問題点とその解決,精神保健推進十年計画—メンタルヘルスゴールドプラン—の樹立を目指して,阪神・淡路大震災に学ぶ—実情報告と今後の精神医療の構築に向けて

1996年

98 巻 10 号,精神分裂病の概念と呼称をめぐる,災害精神医学

98 巻 11 号,あるべき精神科救急・合併症医療システム,感情障害と脳情報伝達,北海道における地域リハビリテーションの歩みと展望

1997年

99 巻5号,精神科卒後教育と学会認定制度の現実検討

99 巻 10 号,操作診断の功罪,向精神薬

99 巻 11 号,精神科急性期医療,二次精神保健医療福祉圏の構築に向けて,精神疾患の Comorbidity,精神科医育成の諸問題—学会認定医制をめぐる

1998年

100 巻3号,神経症を見直す—成因論と治療をめぐる,精神分裂病の呼称と概念をめぐる(2)

100 巻9号,高齢社会と精神医学—高齢社会に精神医学はどのように貢献するか

- 100 卷 10 号,わが国における精神医学と精神医療における国際協力の現状と課題
- 100 卷 11 号,精神科救急と危機介入
- 100 卷 12 号,精神保健福祉法の改正に向けて

1999年

- 101 卷1号,女性の精神医学に関する今日の問題
- 101 卷2号,わが国の精神医学卒後・生涯教育の現状と課題
- 101 卷3号,精神分裂病の異種性(変異性)
- 101 卷 11 号,日常臨床における精神分裂病の早期発見と早期治療
- 101 卷 12 号,児童青年精神医学の現状と展望

2000年

- 102 卷1号,司法精神医学の現代的課題—日本の触法精神障害者対策のあり方をめぐって
- 102 卷2号,精神科医療における今後の地域連携,精神医療における二次圏域の構築
- 102 卷3号,「内因性」概念を見直す,世界と日本の精神医学
- 102 卷 10 号,卒後研修の必修化と精神医学・医療,精神分裂病の呼称変更に向けて
- 102 卷 11 号,精神分裂病における包括的精神医療,精神障害者の地域生活支援システム

2001年

- 103 卷1号,精神科におけるカルテ開示の条件整備について,精神疾患の治療ガイドラインをめぐって
- 103 卷2号,現代精神医学における人格障害の位置づけ—精神病質をこえて,介護保険法と精神科医療の役割
- 103 卷3号,精神科における急性期医療と慢性期医療,薬物関連精神障害者のケアについて
- 103 卷8号,精神医学教育—臨床研修の必修化に向けて
- 108 卷9号,刑事司法における精神障害者の現状
- 108 卷 10 号,未来医療における精神医学への期待
- 103 卷 11 号,21世紀の精神医療—機能分化とその条件
- 103 卷 12 号,薬物・精神療法の新ステージ

2002年

- 104 卷1号,老年期精神医学の医療・看護・介護福祉の統合,地域生活支援の充実—精神障害者ケアガイドラインをめぐって
- 104 卷2号,認知科学の最近の知見

104 巻4号,海外から見た日本の精神医療

104 巻5号,Needs and Resources: Postgraduate Education for Psychiatrists

104 巻6号,精神科臨床における画像診断,ゲノムサイエンスと精神医学

104 巻 12 号,PTSDの精神医学的診断と法的処遇の諸問題

2003年

105 巻1号,グローバル化下のうつ病の社会・文化的側面,神経可塑性と神経変性におけるポストゲノム研究戦略

105 巻2号,近代日本における精神疾患の治療史,アジア諸国における卒後精神医学教育,精神障害者家族のパートナーシップ経験:中国号,日本号,米国

105 巻3号,コンサルテーション・リエゾン精神医学の国際的状況—1年,コンサルテーション・リエゾン精神医学の国際的状況—2年

105 巻4号,老年期精神障害(MCI・痴呆・うつ病)の早期診断と治療戦略,てんかんの最新のトピックス,精神神経免疫学と精神神経内分泌学の最近の進歩

105 巻5号,下田「執着気質」提唱後の60年,比較文化精神療法,地域精神医療における総合病院の役割

105 巻6号,わが国における精神医学・医療の歴史と展望,精神病の現象学—時間性号,転移と現実

105 巻7号,世界を覆うメンタルヘルスの危機,日本における患者の人権と精神医療,これからの精神保健福祉,日本の精神保健改革に向けた提言

105 巻8号,哲学的思考と精神医学の実践

105 巻9号,母子精神保健における周産期・乳幼児精神医学,統合失調症の至適治療プロジェクト

105 巻 12 号,心神喪失者等医療観察法における予測問題をめぐって

2004年

106 巻1号,ポストゲノム時代の精神疾患の遺伝子研究,高齢者の医療・介護における精神科医の役割

106 巻2号,精神科救急の新たな展開に向けて—身体科救急との連携,女性精神医学の提案

106 巻3号,「統合失調症」で何が変るのか,現代精神医学における非定型精神病の意義

106 巻4号,若手精神科医からみた21世紀の精神医学—卒後教育・研修を中心として,単科精神病院での若手精神科医の研修と教育

106 巻5号,精神療法と薬物療法との”微妙な”関係—言葉と薬と身体と,児童・青年の精神医学—こどもの発達の観点と家族の役割,わが国の精神保健福祉改革の課題—厚生労働省精神保健福祉総合計画を受けて

- 106 巻6号,境界例臨床における多職種コラボレーション,精神医学史の機能,サイコオンコロジーと緩和医学の現状と将来,気分障害の病態と治療
- 106 巻7号,精神科診療所の多様化と地域ケアにおける役割,精神医療における脳イメージングの可能性,精神科薬物療法の効用と限界,睡眠医療における精神科医の役割
- 106 巻8号,治療抵抗性気分障害の精神病理と治療戦略,気分障害の生物学的基盤
- 106 巻9号,わが国の精神医学・医療の歴史と今後の展望,平成15年度精神障害者社会復帰サービスニーズ調査から
- 106 巻10号,境界性人格障害の治療の現状と問題点ー治療ガイドライン作成に向けて,不安障害の治療最前線
- 106 巻11号,精神科診療所におけるデイケアーその現状と課題
- 106 巻12号,遺伝子研究によってどこまで精神疾患の病態は解明されたか

2005年

- 107 巻1号,統合失調症における認知機能とリハビリテーション,わが国の精神医療における新規抗精神病薬の役割
- 107 巻2号,児童青年期精神医療の諸問題
- 107 巻3号,てんかん医療の最前線
- 107 巻4号,高齢者の医療・介護・福祉の統合をめざして
- 107 巻5号,これからの精神療法の行方
- 107 巻6号,新卒後臨床研修制度の実際的問題,2005年世界精神医学界WPAカイロ大会に向けて:日本の若手精神科医の期待
- 107 巻7号,死刑への精神科医の関与について
- 107 巻8号,精神科新臨床研修制度と精神科専門医制度ー精神科卒後教育はどうあるべきか,若手精神科医の立場から精神科医療を考える
- 107 巻9号,精神保健福祉法の抜本改正を巡ってー精神保健・医療・福祉システムの再構築
- 107 巻10号,うつ病治療におけるストレスケア病棟の役割,自殺予防の精神医学
- 107 巻11号,スマトラ沖津波被災国援助,児童精神医学に求められるもの
- 107 巻12号,老年痴呆の認知リハビリ,痴呆高齢者の自動車運転と権利擁護

2006年

- 108 巻1号,精神障害に対する偏見克服をどう進めるかー地域生活と自立支援に向けて,精神障害者の就労支援
- 108 巻2号,精神療法のこれからー課題と展望
- 108 巻3号,てんかんの精神障害と精神科医の役割
- 108 巻4号,サイバー精神医療の未来,精神科医療における情報公開のあり方について

て

- 108 巻5号,PTSD診断と法的側面,医療観察法の諸問題と精神科医療
- 108 巻6号,如何にして多剤併用療法を脱却するか,精神疾患のバイオリジカルマーカ一の現状と展望
- 108 巻7号,摂食障害の治療ー診療科を超えたクロストーク,社会不安障害(対人恐怖)の治療
- 108 巻8号,精神医療と精神保健福祉の現状と問題ーおもに教育の視点から,障害者自立支援法体制を検証する
- 108 巻9号,精神科専門医の養成研修はどうあるべきか,若手精神科医の立場から精神医療を考えるー精神医療の現状と地域の課題
- 108 巻 10 号,医療観察法の運用の実態と問題点,精神科救急医療の課題と展望
- 108 巻 11 号,日韓の精神科医による合同シンポジウム,睡眠精神医学の目指すもの
- 108 巻 12 号,精神科デイケアの今日的課題と将来像

2007年

- 109 巻1号,アスペルガー症候群とシゾイドパーソナリティー障害,子どもの精神医療の現状と今後の展望ー専門医の養成を中心にー
- 109 巻2号,「ひきこもり」と精神医療ーCommuniti based Mental Health System,OCD 関連障害をめぐってーとくにセロトニンの脳内作用との関連
- 109 巻3号,労働者のメンタルヘルスの現状と課題,総合病院精神科および大学病院精神科の医療を考える
- 109 巻4号,うつ病と統合失調症の病前性格と発症脆弱性,電気けいれん療法の再評価(磁気刺激療法を含む)
- 109 巻5号,精神科医療における情報開示のあり方について
- 109 巻6号,アルコール依存症者の現状と将来の展望,境界例パーソナリティー障害治療のガイドライン作成をめぐって
- 109 巻7号,認知症をめぐる今日的課題
- 109 巻8号,統合失調症におけるストレス脆弱性の様態
- 109 巻9号,うつ病の心因号,内因号,気質因
- 109 巻 10 号,精神科医療におけるこれからの情報公開,大学病院・総合病院における精神科医療の現状
- 109 巻 11 号,精神科意図しての専門性について考えるー若手精神科医の現場から,新医師精神科臨床研修のアウトカム評価
- 109 巻 12 号,摂食障害についての最近の話題

2008年

- 110 巻1号,医療観察法にかかわる鑑定と法運用の問題点ー事例を通してー

- 110 巻2号,精神科一般診療で遭遇する睡眠障害とその対応
- 110 巻3号,精神障害の労災認定に伴う諸問題とメンタルヘルス,自殺問題と予防対策:厚生労働省戦略研究
- 110 巻4号,子どもの心の診療医をいかに養成するか
- 110 巻5号,アンチスティグマ:当事者活動を中心に
- 110 巻6号,精神科医のための認知行動療法入門:今日はパニック障害をマスターしよう
- 110 巻7号,各国の状況:女性意思の状況を中心に
- 110 巻8号,オーダーメイド精神科薬物療法を目指して,電気けいれん療法(ECT)の標準化—ECTの安全な環境づくりを目指して—
- 110 巻9号,脆弱性モデルからレジリエンスモデルへ,ICD-11に向けての課題,精神障害の「病名呼称用語」号,現状の問題と課題
- 110 巻10号,発達障害の病態と治療—広汎性発達障害と注意欠陥多動性障害を中心に,AD/HDの薬物療法—メチルフェニデートを巡って,これからの児童青年精神医学に求められるもの—Evidennceに基づいた医療
- 110 巻11号,わが国の医療施設における自殺事故の現状とその対策,危機に瀕する総合病院精神科 再生は可能か,産業保健における精神科医の役割—外部と内部の連携
- 110 巻12号,医療観察法における地域処遇について,精神障害者の権利保障と差別禁止をめぐる—国際的動向と日本

2009年

- 111 巻1号,認知症の今日的臨床課題,がん医療における精神医療の役割
- 111 巻2号,精神医学の卒前教育を考える,児童精神科医の育成号,現状と課題,若手精神科医の研修と相互交流の意義と課題—学びの場号,支えの場—
- 111 巻3号,統合失調症早期介入の意義と実際,ACTとOCTの検証とこれからの地域医療システムを考える
- 111 巻4号,トラウマの心理的影響に関する実態調査から,女性精神医学の今日的課題
- 111 巻5号,各地域におけるスーパー救急病棟の今とこれから,急性期精神科医療のあり方とDPC制度
- 111 巻6号,双極スペクトラム障害の概念と臨床—診断と治療—,うつ病の広がりをどう考えるか
- 111 巻7号,強迫性障害の現在とこれから,精神疾患とアルコール使用障害との合併:その双方向的関係
- 111 巻8号,認知症の臨床における最近の話題

111 巻9号,地域移行・地域支援の時代に精神科医はどう向き合うのか,精神障害者の就労支援,医療観察法の現状と今後,総合病院における精神科救急の実践と課題

111 巻 10 号,精神科卒後教育を考える,アジアにおける精神科卒後研修,他職種協働シンポジウム:精神科医と協働してよかったこと号,困ったこと,精神科チーム医療と心理職の国家資格化について,大学付属病院精神医学教室をめぐる課題

111 巻 11 号,児童青年精神科医の現状と展望—スタッフ育成も含めて,自閉症スペクトラム障害の社会性障害の病態と治療的展開,発達障害とライフステージ—医療に求められるものは?

111 巻 12 号, ω 3系多価不飽和脂肪酸と精神疾患

2010年

112 巻1号,アンチスティグマ活動の広がり:精神医療の現場を越えて,精神科医療における非自発的治療および行動制限について若手の視点で考える

112 巻2号,Current Status of Psychiatry in Asian Countries,Disaster and Mental Health : From Asian perspective,The Hoped Horizon of Psychiatry

112 巻3号,児童青年記精神科の現状と展望—スタッフ育成を含めて,うつ病の再燃と個人の脆弱性—産業現場からの提言,うつ病・不安障害に対するリハビリテーションの現代的役割—リワーク・プログラムの治療的意義

112 巻4号,サイコシスの早期段階における臨床をめぐって,急性精神病の現状と再考—診断・治療から

112 巻5号,産業精神保健における臨床研究と企業倫理,職域・地域連携の自殺対策

112 巻6号,精神科医療における「動物」(アニマル・セラピー),精神科用語の問題と今後

112 巻7号,精神作用物質使用障害の今日的状況

112 巻8号,摂食障害:病態・診断・治療の最前線,精神障害が併存するアルコール依存症の病態と治療

112 巻9号,認知行動療法と社会との接点,精神疾患に併存する睡眠障害の診断と治療

112 巻 10 号,気分障害の生物学的理解の最前線,がん医療において号,精神科医に期待されるもの

112 巻 11 号,最近のうつ病の病型と治療,精神科日常臨床における利益相反—医師と企業のつきあい方

112 巻 12 号,一般医療と連携する精神科医療(総合病院精神科)の新しい動向,産業医学への理解を深める—精神科医として具備すべき知識と技術

2011年

113 巻1号,OCDの病態仮説と治療理論,自殺予防と精神保健医療の役割

113 巻2号,日本の精神科医療を展望するー精神科救急の立場から,パーソナリティ障害の診断と精神分析的な精神療法

113 巻3号,精神科専門医取得のための研修にかかわる問題点,精神科医との協働ー事例を中心にー

113 巻4号,統合失調症の社会復帰ーQOLの向上を目指したバイオ・ソーシャルな取り組み,心理職とのこれからの協働を考える

113 巻5号,医療観察法の存続は可能かー5年後見直しを迎えて,今後の精神保険医療福祉はどうあるべきか

113 巻6号,認知症研究の最近の進歩ー3学会それぞれの立場から認知症を極める,日本のACT:各地で行われているACTの成果の現状

113 巻7号,統合失調症の思春期病態と早期介入,児童青年精神科と精神科の接点ーさまざまな疾患を中心に

113 巻8号,東日本大震災に対するこころのケア支援と復興支援対策ワークショップ(前)

113 巻9号,双極性障害の治療を考える:エビデンスレビュー,解離性障害の臨床ー診断と治療号,そして対応

113 巻10号,強迫スペクトラム障害の可能性と治療ーDSM-5の動向と薬物療法を中心に,統合失調症の薬物療法を増強するためにー臨床現場で使える実践的方法論

113 巻11号,精神療法における認知・行動・情動,大人において広汎性発達障害をどう診断するか

113 巻12号,双極スペクトラムを巡って,急性精神病の診断と治療における精神科医の立場

2012年

114 巻1号,医療機関で求められる心理社会的治療ーモデルプログラムの提案

114 巻2号,精神疾患の病態研究の最前線,睡眠医学と精神医学のリンケージによる効果的な治療プログラムの提案

114 巻3号,東日本大震災の復興計画と中長期的支援,認知症号,これからの診断号,治療ー新たな抗アルツハイマー病薬の出現を経て,うつ病と認知症の間

114 巻4号,医療従事者のメンタルヘルスー総合病院におけるメンタルヘルスケア,非自発的入院制度をめぐるー医療保護入院を中心に,地域におけるアウトリーチ活動の実践ーその現状と課題

114 巻5号,健診における過大なストレスおよびうつ病の早期発見と今後の課題,自殺対策と精神保健

114 巻6号,性同一性障害を取り巻く諸問題,抗精神病薬の多剤大量投与はどう認識されているか

114 巻7号,うつ病診療における治療脱落を考える,生物学的精神医学研究:バイオマーカーを用いた客観的補助診断法の開発

114 巻8号,社会性にかかわる脳機能の異常と環境因子との関連,てんかん診療の最前線

114 巻9号,不安障害の現在とこれから—DSM巻5に向けての展望と課題,不安障害の病態・診断・治療の最前線

114 巻 10 号,引きこもりの多角的検討,未来を見すえた戦前の精神医療史

114 巻 11 号,支援者の支援—東日本大震災後の社会的課題,精神科臨床における治療関係の作り方

114 巻 12 号,労災認定の動向と今後の課題—労災認定の基準に関する専門検討会を踏まえて,精神科医療における自殺予防